

2008年度 日本家庭科教育学会第51回大会のお知らせ

開催日：2008年6月28日（土）～6月29日（日）

会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

422-8005 静岡市駿河区池田79-4

大会事務局：吉原崇恵・小川裕子（静岡大学）

1.日程

6月27日（金）

15:00～17:00 理事会

17:30～20:30 地区会代表者会議

6月28日（土）

9:30～ 受付

ギャラリー展示開始（業者展示、ポスター、企画）両日中展示

企画 家庭科教材として生活行政資料を活用する

10:00～12:00 口頭研究発表

13:00～14:00 総会

14:10～16:40 シンポジウム

テーマ 家庭科の新たな実践を拓く 新学習指導要領の検討をふまえて-

17:30～19:30 懇親会（JR静岡駅前 東海軒ビル）

6月29日（日）

9:00～12:00 口頭研究発表

11:10～12:00 （一部）企画 テーブルディスカッション

12:10～13:10 ポスター発表討論

13:20～16:20 企画 ラウンドテーブル

R T 「新しい食の学びを構築する」

R T 「授業研究の方法・分析の力を高める」

R T 「家庭科教育の実態から教員養成カリキュラムを問う アメリカの実態調査を踏まえて」

2. 参加費など

大会参加費

会 員 5,000 円 (当日は +1,000 円)、学生会員 3,000 円 (当日は +500 円)

非会員 6,000 円 (当日は +1,000 円)、学生非会員 3,500 円 (当日は +500 円)

非会員の 1 日のみ参加費 2,000 円 (資料代は別途)

今大会では 1 日のみ参加を希望する一般の方のための「1 日参加費」を設けました。興味・関心のある方にお知らせ下さい。多くの皆様の参加をお待ちしております。

懇親会参加費：5,000 円

3. 企画

シンポジウム

テーマ：家庭科の新たな実践を拓く 新学習指導要領の検討をふまえて-

シンポジスト

1. 本田由紀 (東京大学大学院教育学研究科 准教授)
2. 上野加代子 (徳島大学総合科学部 教授)
3. 石川尚子 (日本女子大学非常勤 講師)
4. 鈴木真由子 (大阪教育大学教育学部 准教授)

コーディネーター 流田直 (十文字学園女子大学 教授)

高木直 (山形大学地域教育文化学部 教授)

趣旨説明：

ここ数年、生活にかかわる深刻な問題が多発している。様々な食に関する消費者問題や家族関係に起因する諸事件の多発、また、ワーキングプアなどによる経済格差の拡大や年金問題などによる家庭生活基盤の脆弱化など、国民の生活は大きく変化し、いろいろな困難に直面している。また、少子高齢化社会における福祉や地球規模での環境悪化などの課題も解決の方向に向かっていくとは言い難い。これらは、21 世紀にはいって顕著になった、グローバル経済の進展や、雇用環境、税制・社会保障制度等と無関係ではない。このような生活環境の変化のなかで家庭科教育はどのような教育実践を切り拓いていったらよいだろうか。

折しも、2008 年度は、学習指導要領の改訂が行われる年度である。その学習指導要領の骨子となる中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」では、「生きる力」をはぐくむという基本理念を引き継ぐことが示され、教育内容の主な改善事項には「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」として、情報教育、環境教育、ものづくり、キャリア教育、食育、安全教育などがあげられている。また、家庭科の改善の基本方針および改善の具体的事項には、少子高齢化への対応や家庭の機能が果たされていないとされる状況への対応が示されている。

今回のシンポジウムでは、この度の学習指導要領改訂の背景にある教育政策を見据えながら、家庭科に求められている視点について様々な角度から検討したいと考える。そして、「教育政策全般」「家族・保育」「食」「消費(経済)・環境」について、学会内外の 4 名の専門家から問題提起をしていただき、今後 10 年くらいを見据えて、改訂学習指導要領をどのように読み取り、今後、家庭科の実践をどのように展開していったらよいについて深める機会にしたいと考える。

企画 家庭科教材として生活行政資料を活用する

行政関係機関や教育研究団体等が発行している様々な資料・冊子の中には、授業で使用する教材や資料に適した、学校（一般）向けにわかりやすく作られたものがある。しかしその存在は一部の教員または県内・市町村内の教員にしか知られていない場合が少なくない。

今回、新企画の一つとして、「東海地方で発行されていて家庭科の授業で活用できる（または活用されている）資料・冊子」を集め展示を行う。展示スペースの関係上、全国の優れた資料を網羅して展示することはできないが、このような資料の存在を知り、今後全国的な資料活用の交流の手始めとなることを目的としている。

日頃の授業の資料として新しいものを知り、また同様な資料・冊子作成に携わっている者にとっても参考になることを期待している。

担当 室 雅子（椋山女学園大学）

企画 ラウンドテーブル ・ ・

R T

<テーマ>

新しい食の学びを構築する

<趣旨> 小・中学校 9 年間の連携で朝食欠食率 1% 以下という全国の教育委員会から注目される文部科学省研究開発学校の食育の取り組みからの報告をしてもらう。さらに食と農を結合させた家庭科の実践報告を受けて、家庭科としての食教育の報告を広い土俵から探っていく。

<報告者>

笠原美保（愛知県西尾市立寺津小学校）

榎本美晴（愛知県西尾市立寺津中学校）

栗原和子（埼玉県鳩ヶ谷市立里小学校）

<コメンテーター>

大羽和子（中部大学）

磯部由香（三重大学）

齋藤弘子（大東学園中高等学校）

担当 森山三千江（愛知学泉大学）

R T

<テーマ>

授業研究の方法・分析の力を高める

<趣旨>

第50回大会に引き続き、要望の強かった授業研究力を高めることを、中心テーマとする。各地で行われている先進的・斬新的な授業実践を、多様な形で報告していただき、全参加者によって、総合的に分析・検討をし合うことによって、授業実践力を高めることを目指す。

<報告者>

- ・牧野美砂子「環境配慮の消費生活」(静岡大学附属島田中学校)
- ・西村朱美「松阪もめん」を中心に多角的視野を付加した授業実践」(伊勢市立五十鈴中学校)
- ・勝田映子「未定」(筑波大学附属小学校)

<コメンテーター>

- ・福原美江(宮崎大学)
- ・高木幸子(新潟大学)
- ・木村範子(筑波大学)

担当 中島喜代子(三重大学)

R T

<テーマ>

家庭科教育の実態から教員養成カリキュラムを問う アメリカの実態調査を踏まえて

<内容>

アメリカと日本における家庭科教育の実態調査を基に、中等教育・高等教育の課題と教員養成カリキュラムの課題をつき合わせながら議論を深め、教員養成カリキュラムのあり方について考える。まず、アメリカで実施された家庭科教育に関する全国調査の結果を基に、アメリカにおける家庭科教育の実態と教員養成カリキュラムの課題について報告をしていただく。

次に、日本の中等レベルの家庭科教育のカリキュラム研究の結果から見出される課題についての報告をしていただき、最後に、教員養成カリキュラムが現場の教育にどのように対応しているかについて日米を比較しながら、わが国における課題と方向性を明らかにしていきたい。

<講師> マーシャ・レーム(Marsha Rehm)氏(フロリダ州立大学)を予定している。

他、依頼中

<コメンテーター> 依頼中

担当 吉本敏子(三重大学)

企画 テーブルディスカッション（TD）

本学会での初めての企画である。ここでは研究課題を参加者全体で主体的に明らかにし、学会参加の意義を高める場とする。趣旨をご理解の上、ぜひご参加いただきたい。

< 概要と趣旨 >

- ・ 従来通り研究発表と質疑の終了後、小休止後に、小グループで、参加型の討議を行う。
- ・ 内容は、研究発表そのものに対する批評ではなく、発表者と参加者が研究発表を通してみえてくる家庭科教育の課題の討議である。これにより交流を深め、今後の研究活動充実の契機としたい。（この方法はカナダやアメリカの学会で行われている。）

< TD の実際 >

- ・ 研究発表者
研究発表を申し込む際、TDに参加の有無を届ける。（Jステージの項を参照）
- ・ TD参加者
研究発表会場にいるTD参加希望の方が自由に参加する。
- ・ ファシリテーターがディスカッションのテーマを提供し5-6人のグループで討議する。
- ・ 時間は50分、現在のところ一会場の予定である。（申し込み件数が多い場合は変更）

なお、5月に発送予定のプログラムに詳細を掲載する予定である。

担当 上野顕子（金城学院大学）